

熱川温泉病院 看護師 内山 伸浩

功 績 第21回静岡県市町対抗駅伝競走大会に東伊豆町代表として出場し、敢闘賞獲得に貢献。また、コロナと闘う医療職の皆さんへの感謝とエールを込めたリストバンドのエピソードが地元紙に掲載され当院をアピールできた功績。

推 薦 者 看護部長 宮本 純代

推 薦 理 由 毎年12月に開催されている市町対抗駅伝に地元東伊豆町代表として出場し、日頃の練習の成果を発揮し、チームの「敢闘賞」獲得に貢献。青色のリストバンドを巻いて走ったエピソードは地元紙に掲載され、コロナに立ち向かっている医療職の皆さんへ感謝と応援のメッセージを届けただけでなく、熱川温泉病院のアピールにも繋がりました。日常業務に従事しながらの今回の彼の活躍は称賛に値すると思いますので理事長賞に推薦申し上げます。

内 容

毎年12月に開催される「静岡県市町対抗駅伝競走大会」は各年代で選抜された選手が地元代表として出場し、テレビで生中継されるため注目を集める大会です。今年はコロナ禍で開催が危ぶまれましたが、感染対策に万全を期し行われました。

入職2年目看護師の内山は真面目な仕事ぶりで、スタッフから頼りにされている存在です。彼はマラソンが趣味で練習に励んでいましたが、走力を評価され東伊豆町の代表入りを果たしました。そこで日頃の練習に加え、7月より当日配置予定の6区(3.9km)を想定しスピードを重視したメニューを消化しました。さらに8月からは毎週チームの合同練習会に参加し、チーム内で競い合いながら走力を磨いていきました。

しかし9月に入り、新型コロナウイルスが収束しない状況下で、内山は医療職としての自覚から出場を悩み、自主練習は続けながらも感染のリスクが及ばないよう、その後の全体練習会への参加を見合わせました。「県内で多くの感染者がいるなか、正直複雑な思いだった」と振り返ります。当院ではコロナ流行当初から様々な対策を実施・徹底しており、職員の県内外への行動を厳しく制限してきました。彼は所属長に大会の感染症対策の詳細を報告した上で、出場の許可を願い出ました。そして院内で検討した結果、出場の許可が下りました。

大会当日は、コロナ感染と闘う全ての医療職への「感謝」と「エール」の気持ちを表した青色のリストバンドを巻いて出場。最初緊張していましたが、タスキを受けると吹切れた感じで前を走る選手を追いしました。「テレビ中継を通じエールを送ることができた」と笑顔を見せ、チームは内山の頑張りもあり、前年より大幅にタイムを短縮したチームに与えられる「敢闘賞」を受賞しました。さらに出場までのエピソードが翌日の地元紙に掲載され、所属先の医療機関として当院の名前も紹介されたので知名度アップに繋がっております。